令和７年度第６回

小金井市環境審議会会議録

令和７年度第６回小金井市環境審議会会議録

１　開催日　令和８年３月２３日（月）

２　時　間　午前９時３０分から午前１１時３０分まで

３　場　所　市役所第二庁舎８階８０１会議室

４　議　事　(1) 第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）について

５　協議・報告事項　(2) 小金井市の環境・みどりに関するアンケート調査結果について

(3) 第３次小金井市環境基本計画における見直し箇所について

(4) 気候市民会議今後の展望について

(5) 第５期小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）について

(6) その他

６　第１１期環境審議会について・次回（第１２期環境審議会）の日程について

７　出席者　(1) 審議会委員

会　長　池上　貴志

副会長　椿　真智子

委　員　高田　雅之、和田　直人

中里　成子、田頭　祐子

橋本　　修、近藤　　豊

(2) 事務局員

環境部長　　柿﨑　健一

環境政策課長　岩佐　健一郎

環境係長　　高野　修平

環境係専任主査　荻原　　博

環境係主事　　田山　未来

環境係　　阪本　晴子

(3) その他出席者

エヌエス環境株式会社

８　傍聴者　０名

令和７年度第６回小金井市環境審議会会議録

池上会長　　それでは、定刻になりましたので、令和７年度第６回小金井市環境審議会を開催させていただきます。

お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

それでは、早速、事務局のほうから事務連絡と本日の配付資料等の確認をお願いいたします。

事務局　　事務局です。

本日は高木委員、土屋委員より御欠席の連絡を受けております。また、田頭委員は１５分ほど遅れるとの御連絡をいただいております。

続いて、事務連絡です。御発言の際の注意事項についてです。マスクを着用されている場合、会議録作成の際にＩＣレコーダーの録音内容が非常に聞きづらくなってしまいます。つきましては、質疑応答等、御発言の際は御自身のお名前を先におっしゃった上での御発言に御協力をお願いいたします。

また、できる限り短時間で有意義な審議会となるよう努めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

また、地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）に係る委託事業者のエヌエス環境株式会社からお二人出席していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、配付資料の確認です。本日は、次第と資料１から資料１０を机上に配付しております。資料６だけはカラーで後からお配りしました。不足等がございましたら、事務局までお願いいたします。

池上会長　　ありがとうございます。資料等、大丈夫でしょうか。

それでは、特になければ、次に次第の（諮問）第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）についてということで、これを議題としたいと思います。本案件は諮問としてお受けすることといたします。

それでは、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野環境係長　事務局、高野です。

本日は委員の皆様の机上に配付させていただきました諮問書のとお

り、市長より本審議会に対しまして、小金井市環境基本条例第２６条第２項に基づき、環境の保全等に関する重要な事項であるため第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）について諮問をお願いするものです。

本日の諮問に対する審議会の答申を会長よりしていただく流れとなりますので、御承知おきくださいますようお願いいたします。

池上会長　　ありがとうございます。小金井市長から本審議会に諮問がありました。書類が来ているかと思います。

それでは、これについて、まず事務局のほうから第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）についてということで、資料のほう、説明をお願いいたします。

高野環境係長　事務局の高野です。

本日、資料１から６まで一気に説明させていただきますので、よろしくお願いします。

こちらにつきましては、１２月に審議会でお諮りしました、地球温暖化対策の中間見直し案についてということでございます。

資料１につきましては、計画書の案になりますので、こちらを手元に置きながら、資料２に、こちらは前回からの修正事項であったり追加事項を記載しておりますので御覧ください。

資料２、一番上のところでございます。一番最初、大きなところとしましては、ページ数を振ってあるんですけれども、コラム欄を追加させていただきまして、世界的な動向であったり、東京都の動向、小金井市の施策などを記載させていただきまして、様々な視点から環境に関するコラム欄を充実させたというところがございます。

続きまして、資料１の４９ページ、５０ページ、５１ページになりますが、温室効果ガス排出量だったり、エネルギー消費量の削減量について、部門別の削減目標というものを新規で記載させていただきました。

５１ページの再生可能エネルギーの導入目標につきましては、部門別の太陽光発電設備導入量というものを新規で記載させていただいております。

また、第４章、５６ページにつきまして、太陽光発電導入世帯数、

目標値を１，９４０件と前回お諮りしておりましたが、前回、和田委員からの御指摘を踏まえて、数字を再度見直しまして、７，５００件と修正させていただいております。

根拠としましては、ポテンシャルの構成比に基づきまして、５９メガワット分を分けた場合というところで、戸建て住宅等とその他の住宅、土地等に分けて数字を計算させていただいているところになります。

続きまして、６９ページから７３ページ及び１０１ページから１０２ページの箇所についてでございます。

こちらが発生抑制を優先した３Ｒの箇所につきまして、令和７年度末、今年度末に小金井市一般廃棄物処理基本計画の改定と、小金井市食品ロス削減推進計画の策定に伴いまして、前回１２月にお諮りした内容と記載内容を大幅に修正してございます。

取組指標につきましても、食品ロス削減推進協力店・事業所認定店舗数の目標値というものを２０店舗から３０店舗に修正しております。また、「市民１人１日当たり家庭系ごみ排出量」を「市民１人１日当たりごみ排出量」に修正してございます。詳細につきましては、ページを御覧いただければと思います。

また、資料１のほうでの第４章、８２ページから８３ページ、ゼロカーボンシティー実現に向けたロードマップというところにつきまして、視覚的により分かりやすくするため、記載内容というものを修正してございます。

その他、１０９ページ以降、資料編を追加しているものでございます。こちらには１２月に田頭委員からも御指摘がありました、気候市民会議における提言の施策の対応、あと用語集を追加したことであったり、今年度実施しました、市民アンケート調査結果の概要等を記載するなど、記載にあるとおり、１から６までのところを追加しているところでございます。

その他、資料２には書いてございませんが、冒頭市長の挨拶文というものが資料１にあるんですけれども、ここはまだ空白にはなってございますが、現在、市長に確認していただいて作成しているところでございます。

その他、国際社会の動向というものを１２ページに記載しているんですけれども、こちらが２０２５年１１月に開催されたＣＯＰ３０の内容というものを追記しているというところが今回の修正箇所となってございます。

続きまして、資料３になります。

資料３につきましては、１２月中旬から１月中旬にかけて実施しましたパブリックコメントの結果を記載しているものになります。

２人から８件、意見と意見に対する検討結果というものを記載してございます。こちらにつきましては、参考資料ということで、後ほど見ていただければと思いますので、特別説明につきましては割愛させていただきます。

続きまして、資料４についてでございます。資料４を御覧ください。資料４につきまして、今回、第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画（中間見直し）を実施した際に、同時期にこの計画のサブタイトル案というものの募集を行いました。

前回１２月の環境審議会でお諮りしてはいなかったんですけれども、環境審議会があった後、市議会等でサブタイトルがあったらどうなんだというような御意見がありましたので、パブリックコメントを実施した際に、計画のサブタイトルというものも募集をいたしました。

募集期間につきましては、パブリックコメントと同時期の令和７年１２月１６日から令和８年１月１９日まで、提出件数につきましては、１件で、その１件の案につきましては、書いてあるとおり、「どこよりも涼しい小金井へ！」、提案理由につきましては記載のあるとおりです。ますます深刻さを増す気候危機の中で私たちは生きていかなければなりません。せめてキャッチフレーズだけでもロールプレイングゲームのようなのりを込めて、ユーモアを交えて取り組んで行きたいという願いを込めて作成しましたということで、いただいております。

サブタイトル案につきまして、このパブリックコメントでいただいた提案を参考にしつつ、事務局において、案を複数、エヌエス環境さんに御協力をいただき作成しました。

１件いただいた意見では、楽しさであったり、ユーモアを交えてというような提案はあったんですけれども、市としましては、地球温暖

化対策を怠ると、さらに気候変動をもたらしてしまうというような気候危機というものを市民の皆様にお伝えしたいと、できれば気候危機であったり、自分ごととして捉えたいというような内容を入れたいなと思っておりまして、１から４のサブタイトル案を作成いたしました。

内容としましては書いてありますとおり、「いま行動するまちへ、気候危機を“自分ごと”に」、２番目が「住みよいまちを守るため、気候危機に向き合おう」、３番目が「脱炭素なまちをつくり、気候危機を止めよう」、４番目が「小金井市に迫る気候変動、いまこそみんなで取り組もう」という４つでございます。

この４つにつきまして、今回の審議会で皆様から意見をいただきまして、サブタイトル案として一つ決定したいと考えてございます。

続きまして、資料５を御覧ください。資料５につきましては、今回の計画の概要版というものになります。もともと計画の概要版と、子ども向けの概要版というものを作成するということを想定しておりましたが、子ども版と大人版と分けずに、ルビ、振り仮名を振るほか、易しい日本語を心がけ、一つのものとして作成をいたしました。

こちらの計画の中に７ページにあります、目指す将来像につきましては、今、空白になっているんですけれども、本日、机上配付しました資料６の小金井市の将来の環境像をこの中に挿入予定でございます。

今回の計画につきまして、小学校に出前事業に行った際にも使えるような形であったり、多くの市民に手に取ってもらえるようなことを意識しながら、今年度開催した気候市民会議の内容であったり、地球温暖化ってどんなことというような、一般的なコラム欄に似た形で、皆様に読んでいただきたいと思っております。

続きまして、資料６、今回お配りしておりますカラー版の資料となっております。横向きのものでございます。

先ほど説明しましたとおり、目指すべき将来像というものを市のほうで作成しておりまして、案という形で作成しております。ただ、ちょっと今書いてある内容で、上のところの場所的に、小金井公園に近いあたりのところに環境楽習館と書いてあったり、その左下にメタウォーターサステナブルパークこがねいと書いてあるんですが、場所が違っているものになりますので、修正はこれから入れるんですけれど

も、あくまで案という形で皆様に今日お示しをさせていただきました。

こちらの資料６につきましては、ホームページで掲載するほか、パネルとして環境啓発事業等で周知する活動をして活用していきたいと考えております。

計画につきましては、前回１２月の審議会の際にお示しした際に詳しく御審議いただきましたので、概要という形で、今回は雑駁ではございますが、説明は以上となります。

池上会長　ありがとうございます。

それでは、たくさん内容がありますけれども、この中間見直しに関する諮問ということで皆さんから御意見いただきたいということと、もう一つ決めないといけないのがサブタイトルを決めないといけないというものがあります。同時に進めると大変ですのでサブタイトルは一旦置いておいて、まずこの中間見直し計画全体について御意見いただきたいと思います。

では、池上から。もういろいろとこの審議会の中でも議論してきたことですので、皆さん、あまり意見がないのかなという感じもありますけれども、この計画の見直しの内容自体はすごく前向きなものになっているので、非常によいかなと思っております。

問題はここから、これを達成するためにどういう施策が出てきてというところかなと思いますので、そこはこれからの市政に期待してということで、私からは特にこの計画に関してこうしてほしいというところはないかなと思っております。

皆さんからも御意見いただけたらと思います。いかがでしょうか。

椿副会長　すいません。

池上会長　椿委員、お願いします。

椿副会長　ありがとうございます。内容については、今会長がおっしゃったとおりです。

形式なので、細かいところはまた気がついた折にと思いますが、例えば、資料３ページ目、コラムを入れてくださった点はよいと思います。熱中症死亡者数の増加の１行目のところ、多摩島しょ地域とありますが、その図の資料名からすると多摩・島しょで、ちなみにこの資料の多摩の漢字が間違っていますが、多摩と島しょの間に中黒を入れ、

統一していただいたほうがいいと思いました。

このように、形式で何か気がついたところがあれば後でまた申し上げればよろしいでしょうか。

高野環境係長　ありがとうございます。

椿副会長　以上です。

池上会長　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

田頭委員　田頭です。

池上会長　お願いします。

田頭委員　田頭です。遅れてきて申し訳ありませんでした。

それから、中間見直しの追加のところをばーっと見ていて気がついたことは、やっぱりコラムを追加していただいた、たくさん入れていただいたことで、何かすごく親しみやすくなったなという印象を持ちました。ありがとうございます。

それと、変化した部分というか、前回の計画よりも変わってきたというような部分もあると思うんですけれども、市民の取組によって、そして市が前向きな生活を持ち、市民が努力するとどのぐらいCO_2が削減できるのかな、また気候変動にもどういった影響が期待できるのかなということが何かぱっと見て分かるような表記もそういえば必要だったかななんて、もっと早く申し上げればよかったんですが、印象としては持ちました。

でも、市民が前向きに取り組めるような表現を入れていただいたということはよかったと思いますので、市のやる気を見せていけたかなと感じることができましたので、それはよかったなと思っています。大ざっぱですけれども、そのような印象を持ったことをお伝えしておきます。

以上です。

池上会長　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

和田委員、お願いします。

和田委員　和田です。いろいろと修正等々御対応をいただいて本当にありがとうございます。

４９ページ、５０ページですか。この資料２から行くと、新しく部門別に温室効果ガス排出量と、あとエネルギー消費量の削減目標といったところを記載いただいたということで、エネルギーのほうですか。部門別のエネルギー消費量２０１３年度対比２０３０年までに、例えば、産業部門で行くと４１％削減ということで、７年間で４１％ですと平均するとエネルギーの総量で５％以上ですか、約６％弱ぐらいのエネルギーを減らすということで、省エネ法でいうとエネルギーの原単位で年間１％削減義務というレベルが民間企業としては努力しているところなんですけれども、総量で６％弱減らすとなると、もう機械を止めるというか、生産量を落とすしかなくなるというようなところというふうにも捉えられてしまうのかなというところがちょっと見ていて思いましたので、CO_2であれば、太陽光を入れるとか、再エネに変えるということをすればCO_2を減らせるんですけれども、エネルギー自体の消費量を減らすということになると、これは活動自体を減らさなければいけないということになるので、何かＨｏｗというか、できることと一緒に取り組むということであるといいんですけれども、ちょっとなかなか厳しいなというふうに思いましたので、これをどうコミュニケーションを事業者の方と取っていくかというところは、別途、何か作戦があったほうがいいのかなというふうに率直に見て思いました。

ただ、これぐらい、何ていうか、野心的な目標をやっていかないといけないというところは重々私も同意するところです。すいません。ちょっと評論家っぽくなって申し訳ないんですけれども、そういうふうに思いました。

池上会長　　ありがとうございます。

確認ですけれども、このエネルギー消費量は再エネとは別に再エネの自家消費で減った分はもう抜きにして、そもそものエネルギー消費を減らさないといけないということなのか。

事務局　　回答させていただきます。そうですね。再エネとはまた別に見積もっているところです。

池上会長　　再エネの自家消費で減らしたということにはならないのですよね。

事務局　　そうですね。

池上会長　　もうそうすると本当に純粋に、もうエネルギー消費を効率よくしないといけないというところになりますかね。前回までの議論にもありましたが、この全体の目標の４６％というものがなかなか大きい数字で、最後、無理やりエネルギー消費量の削減で帳尻を合わせたというところがあったかと思いますので、多分そういうところをどのように達成するかですね。

高田委員　　高田です。前回欠席して大変申し訳ありませんでした。

できることとやらなければいけないことというものはどうしてもやっぱりギャップがあるんですが、多分この計画はやらなければいけないことを掲げた計画ではないかと。できることだけをベースにやっていくと、なかなか進まないというものがこの気候変動の難しさかなということをまず感じました。

４つほど意見といいますか、要望といいますか、お答えいただかなくても結構なんですけれども、４つほど申し上げたいと思うんですが、１つ目はもっと早い段階でお願いすればよかったのかもしれないんですけれども、第２章の温室効果ガス排出量の現状です。これは部門別に算出しています。これは小金井市に限らずどの主体の部門別に都でも国でも同じなんですけれども、この計算の仕方ですよね。多分原単位があって、その単位量当たりの排出量という数字、原単位があって、その単位量というものはどういうものなのか。

例えば、家庭だったら、人の数なのか世帯数なのか、建物の造りなのか。業務部門だったら、床面積なのか生産量なのかとか。それから運輸部門だったら走行距離なのかガソリンディーゼルの使用量なのか、車の保有台数なのかという、何を単位量にして原単位と掛け合わせて算出しているのかというものは、多分煩雑な計算をかなりされていると思います。

分からないものは推計されていると思うんですけれども、大まかに、部門別に、どんな単位量を用いて、その小金井市に関するその量というものは、統計的にある数字なのか、それともないので推計しているのか。細かい計算の仕方とか数値は要らないんです。それはもうお任せしている話なんですが、大まかにどういう計算をしているのかというものは審議会としては知っておきたいかなと思ったものですから、

何か最終回で言う話ではないんですけれども、今さらながら読んでいてそのようにというふうに感じたものですから、次の計画に向けても、大まかな概要でいいので、その考え方を何か分かる範囲で、今後教えていただく機会があればいいなというものが１点目です。

２点目は、東京都のＢｅｙｏｎｄゼロカーボンの計画にも書かれているんですが、シナジーという言葉が書かれていまして、つまり気候変動対策だけではなくてそれ以外の問題も同時に解決していこうという考え方が東京都は、東京都の場合は生物多様性と気候変動というふうに書いてあるんですけれども、例えば、ごみを減らすという循環型社会の成果にもつながりますよね。

例えば、運輸部門が下がってくると、大気汚染も減るし、道路交通騒音も減ってくるということもあると思いますので、いろいろな問題、環境問題を同時に解決していくというシナジーという考え方がこれから重要になってくると思いますので、次期の計画に向けてでもいいと思うんですが、そういう視点が大事であってほしいというのが２点目です。

３点目は、この計画にも関わるんですけれども、評価というものが最後に出ていますよね。１０７ページなんですけれども、計画の進捗点検、評価というものがあるんですが、この目標にした排出量がどうなったかというだけの評価だと、やっぱり厳しいと思うんですよね。なかなか、市民一人一人が努力したものが必ずしもこの推計方法に反映されるとは限らないという、やっぱり計算方法はどうしてもあると思うので、ここには審議会において総合的な観点から点検評価するという表現が上手に使われているんですけれども、この総合的な評価というものがここはすごく大事で、トータルの排出量がどれだけ減ったかということだけではなくて、例えばリサイクルがどれぐらい進んだかとか、それから、緑の量がどれぐらい増えたかとか、いろいろな要素を総合的にこの計画を評価する必要があると思います。

それは冒頭に言いましたように、やれることとやらなければいけないことのギャップがあるからなんですね。これはやらなければいけないことなんだけれども、実際できるかどうかというものは難しい面がありますので、総合評価の中でどういう努力をしたかとか、それがど

ういう形であらわれてきたかとかいろいろなところにあらわれてきていると思うんですが、そういう評価の仕方が今後大事だなというものが３点目です。

最後は、業務部門のところで、中小企業への先ほどの和田委員からも御指摘がありましたけれども、中小企業の取組の中でこれを実現していくというのはやっぱり難しい面がいろいろあると思うんですが、中小企業の取組というものはすごく大事だと思っていますし、意識も非常に高まっていると思いますので、積極的にこれから情報提供したりとか、支援をしていきたい。いろいろな支援の仕方、アドバイザーを提供、紹介するとか、いろいろな支援の仕方もあります。国の制度をお教えするとか、いろいろな支援の仕方もあると思いますので、中小企業というものをこれから意識してほしいなと思います。

以上、４点、申し上げました。

池上会長　ありがとうございます。

今、高田委員から点検、評価のところがありました。これから、この審議会の役割としてこの点検、評価をしなければいけなくて、以前からこの点検、評価はずっとしてきているわけですけれども、やっぱりＣＯ$_2$排出量で見ると、電気の原単位が上がりましたとか、人口が増えましたとか、やっぱりいろいろな要因でなかなか減ってこなかった現実があるかなと思っています。

そういう意味で、なかなかＣＯ$_2$排出量を減らしましょうというものは、先ほど和田委員が半分に減らすというものは活動を減らすのかというところと同じで、極端に言えば、人が小金井市から出ていくと、ＣＯ$_2$排出量が減っていく。でも、そういう未来を目指しているわけでは決してなくて、これまで以上に成長していく中で、いかにＣＯ$_2$排出量を減らすかということを目指すと考えると、なかなかこのＣＯ$_2$排出量のこの目標値というものは達成が難しいことかと思います。

ただ、そういう中で、この目標を立てるということを市としてやっているということ自体が重要で、そういう意味で、ずっとこれまで何回もこの議論をしていたときに申し上げましたけれども、具体的な施策でないと、できた、できなかったという評価や、それを活かして、どう変えていったらいいのかという議論に結びつかないところがあり

ましたので、そういう意味で、この太陽光発電の導入量の目標値のように、具体的な数値目標が出てきたというものは、一つすごくいいことかなと思って見ています。

こういう目標は、すごく評価しやすい、達成状況が見えやすい、足りなければ何かをしないといけないという行動にもつながるかなと思います。実際この導入世帯数７，５００件という目標は残りもう５年しかない中でのすごく高い目標だと思いますので、これを来年、再来年と見ていくと比較的CO_2排出量と比べると早く結果が見える指標なので、うまく進んでいない状況があれば、それも見えるところかなと思います。

そうすると、市として、予算をつけてということになるかもしれませんし、何かしらの施策が必要ということにはなってくるのかもしれません。目標を掲げた以上、どうしたらいいのかというところ考えていただけると、それはすごくいい循環になるかなと思います。そういう意味でも、点検、評価の仕方もすごく工夫できたらいいかなと思っております。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

椿副会長　　なければ概要版のことでも大丈夫ですか。

池上会長　　概要版も含めてで大丈夫です。

椿副会長　　ありがとうございます。椿です。

これも細かいことで恐縮です。概要版の一番最後の１２ページ、市民アンケートを拝見しますと、いろいろな制度やプロジェクト等をやってくださっていますが、認知度の低いものがあることが見えてきます。活用いただきたい制度や事業をもう少し大きな字にしていただいたらよいのと、検索という形で出していただいますが、検索できない方もいるかもしれないので、問合せ先、一番下の環境係さんでよろしいですか、それも書いてあるとより丁寧というか、親切かと思います。ちなみにこの概要版は全世帯に配布するものでしょうか。どのように配布されるかも教えていただければと思います。

以上です。

池上会長　　今のは事務局から何かありますか。

高野環境係長　では、事務局からです。

椿委員の御意見につきまして、一番上の活用いただきたい制度や事業などというところを大きくしたいと思うのですが、くるカメの食品ロス削減プロジェクトとリユース事業のゆずる輪については、ごみ対策課の事業になるのでここは書き方を工夫させていただきます。

こちらの配布先についてなんですけれども、全戸配布等は考えていなく、事業等での活用や環境フォーラム等での配布などを想定しております。ただ、電子データでの活用というところもありますので、小学生に向けたというような配信というようなお話、小学校の出前授業でも活用できるようなというところを意識しておりますので、小学校も今電子データでいろいろなチラシ類が配布されていますので、そういったものを活用できればなとは思ってはいるんですけれども、学校のほうもそういったチラシ類が電子データでかなり多く来てしまっていて、情報をなかなか集約できないかというような声もいただいているので、その活用方法については、送って終わりにならないように、送ったからもうやりましたということを、事務局としては言いたくないので、うまく先ほど申し上げた出前事業、フォーラム等の事業実施等を通して活用できればと思っております。

椿副会長　　ありがとうございます。

最後の学校への情報提供はぜひお願いしたく、ただ、まさに言われたとおり、日々いろいろなものが入ってくるのも事実です。ハチドリプロジェクトは今後も継続されるのでしょうか。環境学習、特に市としてやってこられたプロジェクトとコラボして、情報を学校側に提供するのもよろしいかなと思いました。ありがとうございます。

高野環境係長　では、高田委員から宿題もいただいていますので、部門別の計算の仕方につきましては、今回、審議会の中でお示しすることは難しいので、次回以降の宿題として、どこまでお示しできるか等も確かに審議会の皆様に知っていただいて、次の計画等にもそちらが活用できると思いますので、そちらは次回以降でお示しできればと思っております。

評価等につきましても、おっしゃるとおりだなというふうに池上会長からも御意見ありましたので、こちらもいただいた意見を基に、うまく評価していただけるように取組を進めていきたいと思います。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、この中間見直しに関しては今いただいた意見をここにまとめてということとしたいと思います。ありがとうございました。

続いて、サブタイトル案を決めたいと思いますので、資料４を御覧ください。パブリックコメントでいただいた案は１つだけということで３番のところに書いてある内容ですけれども、１つだけから決めるというところと、あとは気候危機を中に取り入れたいというところがあって、このような案を作っていただきました。

それで、どれがよろしいですか。皆さんから御意見いただけたらと思いますけれども。

和田委員　　では、よろしいですか。

池上会長　　和田委員、お願いします。

和田委員　　和田です。あくまで個人的な意見で恐縮なんですけれども、私は１番がいいかなと読んでいて思いました。

やっぱり市民の皆様に、いかに“自分ごと”になってもらうかというところに尽きるかなというところと、あとはやっぱり実際行動に移すというところが大事な点というものがあると思います。この御提案いただいた方の御意見ももっともなんですけれども、個人的には、もっと危機感を持ってやっていくというフレーズのほうがいいのかなと、伝わりやすいのかなと思いましたので、私は１番がいいかなと思いました。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

近藤委員　　よろしいでしょうか。

池上会長　　近藤委員、お願いします。

近藤委員　　私は市民の方の「どこよりも涼しい小金井へ！」の涼しいの後に、英語でＣＯＯＬってクールって入れてかっこいいという意味も含めて入れたらどうかなと思います。

確かに、危機感を皆さんに持ってもらわなければいけないんですけれども、どうしてもこの環境問題とか、気候変動問題というと、皆さん、何か我慢しなければいけないとか、苦痛とか何かそういうイメー

ジがどうも出てきてしまうので、かっこいいとか、そういうイメージがあったほうが市民の方も、特にお子さんなんかは取り組みやすいのかなと思いました。

池上会長　　なるほど。ありがとうございます。

田頭委員　　田頭です。

池上会長　　田頭委員、お願いします。

田頭委員　　私も今、近藤委員がおっしゃられたように、ＣＯＯＬ小金井というフレーズをどこかに入れたらどうかなと思いました。この市民の方の思いもやはり涼しいというところがやはり涼しい、絶対どこよりも涼しい小金井ってなかなか難しいと思うので、実際には。

ですので、この事務局案の１番の「いま行動するまちへ、気候危機を“自分ごと”に」という、これも具体的で危機感を持つといういいフレーズなので、この上に「ＣＯＯＬ小金井」というものを一文入れて、それで、「いま行動するまちへ」というふうに（１）をつなげていくと、その市民の方の出していただいたものも取り入れた感があるかなと。ＣＯＯＬというものはかっこいいというものと涼しいというものと、両方日本人としては受け止めるわけですから、どうかななんて、これも思いつきというか、意見ですけれどもお伝えいたします。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

池上ですけれども、「“自分ごと”に」というものはすごくいいかなと思いました。この今回の地球温暖化対策地域推進計画においても、家庭における脱炭素化の課題として５６ページに、事業所においても６１ページに課題として“自分ごと”化が書かれています。自分ごと化をすることがかっこいいになるといいのかなという感じはいたしました。

これは、そういう意味では、この案の中から選ぶということではなくてもよろしいですかね。

高野環境係長　はい。

池上会長　　そうすると今ちょっと考えないといけなくなりますけれども、１番とＣＯＯＬ小金井をつけることを考えて、全部入れると長いのかなという気もします。「いま行動するまちへ」を取って、「気候危機を“自

分ごと”に、ＣＯＯＬ小金井へ」という案ですかね。ただつないだだけですけれども、これも踏まえて、事務局、どうですか。

高野環境係長　そうですね、すごくいい案だなと思います。気候危機というものは、事務局としては何か入れたいと思っていて、和田委員から１番がいいというような御意見をいただいて、近藤委員からもこの意見を生かしつつＣＯＯＬ、涼しいとかっこいい、の意味合いが含まれるといいのではないかというような御意見をいただいて、確かに合わせると「気候危機を“自分ごと”に、ＣＯＯＬ小金井へ」みたいな感じだと何かキャッチフレーズっぽくなるかなと。気候危機というものも入れられるし、涼しい、ＣＯＯＬ、涼しいしかっこいいまち小金井というようなまちという形でもいいのかなというふうに思いました。なので、会長が作ってくれた最後の案は何か市民の方の意見を参考にしつつ、事務局としても入れたい要素を取り入れられていいのかなと思うんですけれども、最終的には、皆様の意見で決めたいなとは思っております。

池上会長　　マイナーな修正も含めて何かありましたら、よろしくお願いします。

椿副会長　　はい。

池上会長　　お願いします。

椿副会長　　皆様方や高野さんがおっしゃった気候危機という言葉は入るとよいかと。自分ごとも。４つの中では１番と思っていて、近藤委員がおっしゃったＣＯＯＬ、いいですね、かっこいい印象を含むキャッチフレーズとしてよいと思います。微修正案です。「行動するまち・ＣＯＯＬ小金井、気候危機を“自分ごと”に」、ちょっと長いですが、微修正案です。以上です。

池上会長　　ありがとうございます。ＣＯＯＬは本当に入れたいです。行動するのがＣＯＯＬ、“自分ごと”にするのがＣＯＯＬというニュアンスになるといいかなというところがあります。どのぐらいの長さがよいでしょうか。

高野環境係長　キャッチフレーズなので、あんまり長過ぎてもというところがあるんですけれども、ただ、１から４のうちでは１番がいいというふうな御意見もいただいていて、１番とＣＯＯＬをうまく組み合わせたものがいいかなと思います。どうでしょう。橋本委員。

橋本委員　　いや、皆さん、非常にいい意見だと思いますけれども、私個人的に

はやはり小金井という言葉は入れたほうがいいかなと思いましたね。「自分ごと」というものと小金井というものはつながるのではないかと。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

高野環境係長　会長、まだ時間的にもまだほかの議題があるので、今回いただいた御意見、会長の意見と椿委員の御意見を勘案して、最終的に決定とさせていただければと思います。

岩佐環境政策課長　いろいろ御意見いただいて、「いま行動するまちＣＯＯＬ小金井、気候危機を“自分ごと”に」ということで、何となく語呂もいいし、皆さんの環境審議会の意見も市民の方の意見も一緒に入れられているなということで、すごくいいなと思ったところですので、ここら辺を勘案して決められたらなと思いまして、最終的に最後、御提案いただいて「いま行動するまち、ＣＯＯＬ小金井、気候危機を“自分ごと”に」ということで、何か語呂もいいかなということで考えていますので、そこら辺をちょっと、検討をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

池上会長　　ありがとうございます。

そうしたら、行動するまち……。

岩佐環境政策課長　いま行動するまち、ＣＯＯＬ小金井。

池上会長　　中黒はどこでしたっけ。

椿副会長　　要りますかね。御検討いただければ。

池上会長　　そこら辺の協議は。

椿副会長　　はい。ちなみにＣＯＯＬはアルファベットですね。

橋本委員　　うん。

椿副会長　　どうでしょう。

近藤委員　　どうすればいいんですかね。

岩佐環境政策課長　英語表記でアルファベットでＣＯＯＬがよく使われる表現もあると思いますので。

池上会長　　では、その方向で。よろしくお願いします。ありがとうございました。

橋本委員　　すいません。

池上会長　　はい。

橋本委員　　橋本です。何だろう。この概要版のところにはサブタイトルというものがついているんですけれども、ここだけに……。

高野環境係長　もちろん、本編にもつきます。

橋本委員　　ああ、そうですか。分かりました。

高野環境係長　サブタイトルは資料本編、概要版、両方ともつく予定です。

池上会長　　ありがとうございます。それでは、先ほどの中間見直しについての諮問も含めまして、審議会の皆様から御意見いただきましたので、こちらで審議会の意見を付して承認を決定して市長に答申してよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、そのように進めたいと思います。ありがとうございます。

それでは、続きまして、議事次第３番の協議・報告事項に移りたいと思います。これもたくさんありますけれども、事務局のほうから説明をお願いいたします。

高野環境係長　それでは、事務局、高野です。

まず１番のアンケート調査結果についてと第３次小金井市環境基本計画における見直し箇所についてと気候市民会議今後の展望についてまでを一括で私のほうから説明させていただきます。

資料７から９をお手元に御準備の上、資料７を御覧ください。

資料７が令和７年度の小金井市の環境・みどりに関する市民アンケート調査結果報告書になります。こちらが８月１９日実施の第３回環境審議会に速報値としてお示ししているものと大きく変更はございません。

ただ、３２ページ、池上会長のほうから気候変動への適応と生物多様性に関する設問について、言葉は知っていたが、意味は知らなかったも含めて認知度の許容に入っているが、意味を含めて知っているものとしてお示ししないと、こちらが目標にしないといけないという御指摘がありましたので、前回お示しした際は令和７年度の数値をそれぞれ７８.８％、７５.４％としておりましたが、意味を含めて知っている方のみを対象とするため、こちらの気候変動への適応の令和７年度の認知度については４８.２％、生物多様性の認知度につきましては

５３％と修正しております。

また、ページで言うと１２ページになるんですけれども、環境配慮型機器の導入状況について、こちらも池上会長のほうから戸建てと賃貸等であったり、導入状況が異なる結果になったり、あと住所別、住居別にそういったものを把握したほうがいいような御指摘をいただいております。

本日、資料としてお配りしておりませんが、こちらの計画のアンケート結果の資料編として、別途戸建てであったり、賃貸別の集計結果であったり、住居、居住地域別の結果など、クロス集計で細かく数値を出した資料がございますので、今後の補助金制度における参考資料として活用していきたいと考えてございます。

こちらの本編と、今回お示ししてございません資料編につきましては、市のホームページ等で公表する予定となってございます。

資料７につきましては、前回と大きく変更がないため、以上となります。

続きまして、資料８になります。資料８が第３次小金井市環境基本計画記載内容一部修正についてという資料になってございます。

環境基本計画と同時期に策定しております、第２次小金井市地球温暖化対策地域推進計画につきましては、今回お示ししている計画につきましては、計画の中間年度に当たる令和７年度に温室効果ガス排出削減目標の再設定などの見直しを行っております。

環境基本計画と地域推進計画ともに計画期間が１０年間となってございまして、今回の地域推進計画の中間見直しに伴いまして、環境基本計画についても整合性を図るため、一部記載事項の修正を行っております。

また、環境基本計画において５年に１回把握するとしている一部の指標等についても、令和７年度に先ほど資料７でお示ししました、環境・みどりに関する市民アンケート調査を実施したため、最新の現状等についての記載の更新を行いたいと考えております。

環境基本計画につきましては、今回お示ししております地域推進計画の中間見直しのように、全面的な改定ではなくて、修正箇所と更新箇所については、今回お示ししている資料のとおり変更しますという

ことのみをホームページ等で表記して、更新したいと考えております。

修正箇所についてでございます。

１ページの真ん中ら辺に書いてありますとおり、１番の地域推進計画の中間見直しに伴い記載内容を修正する箇所が（１）市民１人１日当たりのごみ排出量になります。

めくりまして、２ページ目の（２）食品ロス削減推進協力店・事業所認定店舗数につきましても、推進計画中間見直しに伴いまして、目標の数字を２０店舗から３０店舗という形に数字を修正してございます。

（３）市内の温室効果ガス排出量、エネルギー消費量についてでございます。こちらも、もともとの計画では、それぞれ温室効果ガスの排出削減が２０１３年度比で２６％削減で市内のエネルギー消費量が１７％削減であったものを今回の中間見直しに伴いまして、それぞれ４６％削減、２１％削減というような形で数字を変更してございます。

続きまして、３ページの２番になります。「環境・みどりに関する市民アンケート調査」実施に伴いまして、現状の更新箇所を赤字で記載してございます。今回モノクロでお配りしているので赤字箇所が目立ちづらいんですけれども、実際のホームページで更新する際は赤字で示しているところになります。

（１）の緑の豊かさにつきまして、令和７年度７１．８％であったものが今回のアンケート調査では７２．３％、先ほど説明しました（２）の生物多様性の認知度につきましても、同様に数値を更新してございます。そのほか、（３）のまちの美しさと（４）の意識調査における「適応」の認知度につきましても、こちらの数字で新しく更新して、ホームページで公表したいと考えております。

第３次小金井市環境基本計画記載内容一部修正については、以上となります。

続いて、資料９、小金井市気候市民会議今後の展望についてという資料になります。

気候市民会議につきまして、令和７年度に実施し、令和８年度も開催したいと考えてございます。１２月の審議会の際に、勝手に自分の中で諮ったつもりだったんですが、まだ諮っていなくて、今回、審議

会の中でお示しするのが初めてとなります。

一番上に書いてあります、１ページ目の実施概要についてなんですけれども、書いてあるとおりで、気候非常事態宣言で２０５０年までのゼロカーボンシティーを目指しておりまして、その目標達成に向けて、市民の皆様が自分ごととして取り組むことができる温暖化対策に係る行動等について提言としてまとめることを目的に気候市民会議というものを令和７年度に実施しました。

下の２ページになります。スケジュールのイメージになりますが、令和７年度に実施した気候市民会議につきましては、今回お示ししております令和７年度の地域推進計画の中間見直しにおける提言書をいただきまして、施策等に反映させていただきました。

来年度はまだ未定ではあるんですけれども、わかもの気候市民会議という形で開催をしたいと考えてございます。年齢は今年度は１６歳以上としていたんですけれども、年齢を１６歳からまだ未定ですがおおむね２５歳程度というのを想定しております。

今後、大まかな流れとしましては、令和９年度は未定ではあるんですけれども、次が第２次地球温暖化対策計画、第３次環境基本計画と次期計画の策定前に当たりますので、その策定前の提言等をいただきたいというところで、令和１０年度は開催を５回として開催したいと考えております。令和１１年度以降は未定ですけれども、ざっくりとそういったスケジュールで考えてございます。

ページをめくりまして、３ページを御覧ください。

３ページは、今年度実施したものの概要となりますので、こちらにつきましては、説明を割愛させていただきます。

下の４ページを御覧ください。これが令和８年度に実施を想定しているわかもの気候市民会議となります。対象としましては、１６歳から２５歳までの市民３，０００人から無作為抽出で３０人を選定。概要としましては、講義形式とグループワークの実施で計２回を想定しております。そのほか若者が市政に参加しやすくなる仕組みとしての議論を考えておりまして、若者が地域を「自分ごと化」ができるアプローチを強化したり、行政や地域、若者同士のつながりを創出して、小金井というまちを「自分ごと化」を通して定着や、地域人材の発掘と

育成の課題を解決するということも、目的の一つとして開催したいというふうに考えております。

続いて５ページを御覧ください。令和１０年度につきましては、まだ予定ですので、こちらにつきましては先ほど説明した内容と同等となります。

下の６ページになります。施策のイメージになるんですけれども、こちらわかもの気候市民会議として、矢印にいろいろ書いてあるんですけれども、同世代への展開であったり、他世代、親世代への展開であったり、若者の皆様はＳＮＳ等を活用されておりますので、ＳＮＳ等を活用した情報発信であったり、無関心を感心に変える「自分ごと化」であったり、若者自体の発想の具体化というところも期待しております。

今回、政策提言というのはいただかないというところを想定してはいるんですけれども、会議で出た意見というのは報告書としてまとめる予定になっておりますので、提言ではないものの、何かしら市政に反映できるような形にしたいとは考えているところです。

続いて、７ページ、８ページ、９ページについてです。これが他市の事例になります。他市では、日野市、多摩市、府中市合同で気候ＹＯＵＴＨ会議を７ページにありますとおり実施していたり、今年度は８ページにありますとおり、世田谷区のほうでは、世田谷版気候若者会議というものを実施しております。

そのほか９ページにありますとおり、渋谷区のほうでは気候市民会議という形ではないんですけれども、若者気候変動会議というような形で、毎年、若者の意見交換を実施して、環境問題を自分ごと化して捉えるためには何か必要という意見交換を実施しているというようなところを情報として持っておりますので、そういった情報を参考に今回、資料としてお示しさせていただきました。

今回この環境審議会にお諮りする前に、ちょうど今月、市議会の予算特別委員会がございまして、その中で１６歳から２５歳、２５歳までだと年代が限定され過ぎているのではないか。もう少し幅を広げたほうがいいのではないかという意見があったり、やはり提言というまではいかなくても、アウトプットを大事にして何かしら施策に取り入

れる形、方策を考えたほうがいいのではないかであったり、無作為だけではなくというような意見もいただいているところでございます。あくまで事務局の案で、これが来年度、令和８年度の第１回目のこちらの環境審議会において、詳細につきましてはまたお諮りしたいと考えておりますので、まずはそのさわりという点で御理解いただいて、今回もし、いただける意見があるようであれば、そちらも御議論いただければと思っております。

雑駁ではございますが、資料７から９については以上となります。

池上会長　　ありがとうございます。今の資料について御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。中里委員、お願いします。

中里委員　　中里です。私も今の高野さんの説明のところで、審議会のほうで出たということですけれども、やはりわかもの気候市民会議を設けるに当たっては、ある程度男女の比率とか、地域辺りを勘案していただいたほうが、より小金井市のくまない意見を吸い取ることができるんじゃないかというふうに感じましたので、できればその辺を勘案していただきたいと思いました。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

高田委員、お願いします。

高田委員　　高田です。わかもの会議ですけど、対象となる若者が小金井市に住んでいる人なのか、あるいは大学がたくさんありますので、大学や高校に通っている人も含むのかという、どっちの考え方を取るかでまた変わってくるかなというふうに思いますので、その辺りもお考えいただくとよろしいかなと思います。

池上会長　　確かに渋谷区の事例を見ると、参加対象は在住、在勤、在学または区で環境に関する活動をしているという意味では、在住じゃなくてもいいというところがあるのかもしれません。

高野環境係長　では、事務局から。中里委員から御意見いただきました件につきまして、今回、令和７年度につきましては、１６歳以上の方で男女比と地域につきましても、居住の割合と、それに合わせた比率で発送しておりまして、実際、返ってきた方たちも、ちょうど男女比もそうだし、地域の割合も居住人口の割合に近い形での回答となりましたので、そ

ういったところを無作為で実施する際は考慮して、引き続き行いたいと思っております。

高田委員からいただきました御意見につきまして、在住だけだと、せっかくの大学であったり専門学校だったり、学生がたくさんいる地域になりますので、在住、在勤、在学で考えているところですので、小金井に大学のうちしかいないという方もいらっしゃるかなと思うんですけれども、そういった方も小金井を出てから、これからも小金井市域だけで気候変動対策については考える問題ではないので、在学中に色々と考えていただいて、羽ばたいてもらえればと思っております。

池上会長　ありがとうございました。

田頭委員、お願いします。

田頭委員　田頭です。今年度のわかもの気候市民会議というところで、まず、こうやって若者を対象にしたものを絞って開催するということは、よかったかなと思っています。毎年開催するというのは、なかなかほかの自治体としても、あまり事例がないようだったので、小金井市の前向きな姿勢かなと思ってうれしく思っています。

それですが、今回、令和８年度は講義形式及びグループワークの実施というところで２回になっているんですけれども、できれば前回というか、令和７年度の気候市民会議でも提案したところではあるんですが、できれば、このせっかく集まって意識が一定高い方たちが、またさらに高まったということもあると思いますので、何かしら市の施策等に参加していただけるような機会は持てないのかなというふうに感じました。

そういう意味では、環境政策課の取組としては、一つは環境フォーラムが大きな事業として持っていますので、環境フォーラムに何らかの形で、気候市民会議のわかもの会議の方たちが参加していただくとか、企画を何か一つ企画していただくとか、何かそこで一緒にできないかなという思いを持っておりますので、ぜひ検討していただければありがたいです。

以上です。

池上会長　ありがとうございます。

和田委員、お願いします。

和田委員　　和田ですけども、ありがとうございます。個人的には小金井市の強みというか、特徴をいかに入れていくかというところが一番エッジを利かせる意味で大事なのかなと思っていまして、自分はどうしても小金井市というと、名立たる学府が、たくさん有名大学さんがいらっしゃるというところが強みに見えてしまっているところがあるんですけど、そういう意味でいくと、大学生の方々をひとつ巻き込むというところ。大学生の方に例えば子供向けの環境プログラムをつくってもらうだとか、それから、小金井って公園があったり、フィールドを持っているという強みがあるので、そこをプラットフォームにして何か活動してもらうみたいな、何か小金井だからできるみたいなところをもっと際立たせるといいんじゃないかなという気がします。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

近藤委員、お願いします。

近藤委員　　今の御意見に関連してなんですけども、先ほど在学、在勤の方もという意見があったんですけど、他市の状況を見ていると、今、よさをというお話があったんですけども、在勤とか在学の方のほうが意外とその市のよさを分かったりする事例がありまして、長く住んでいると分からないというのがあったので、さっき提言というお話がありましたけど、提言の中に結構その在勤、在学者の方は、こういうよさをもっと出したらと言っていたので、そういう意味では外から通ってきている人たちの意見というのが、意外と参考になるのかなと思いました。

池上会長　　ありがとうございます。

椿先生、お願いします。

椿副会長　　椿です。今、出たご意見と関連して、次年度、若者を引っ張り上げて、積極的に参画いただくのはとてもよいと思います。

一つ、素朴な質問です。資料で若者を平仮名にされていますが、何かコンセプトがあるのか、という質問です。

それから、意見です。今、出していただいている１６歳からおおむね２５歳の会議と別でもよいですが、中学生レベルでもいろいろな意見を持ったり考えることは可能なので、もちろん小学生も可能ですが、中学生も引っ張り出すことも考えていただくといいんじゃないかなと。

今、高校生、大学生が中心の設定になっていますが、中学生もどうかという意見です。

それから、大学生に関して今、御意見いただいたので、例えば本学ですと環境教育専門の学生がおり、広い意味での学びとつながるので、御提案いただいたような大学生に主体的に動いてもらう、あるいは環境プログラムを作ってもらうことも、ぜひ市から働きかけていただくとよいと思います。複数の高等教育機関があるので、気候市民会議に大学生枠、住民票を移していない学生も結構いるので、大学生枠をつくっていただくのもありかと思いました。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。

和田委員、お願いします。

和田委員　　和田ですけれども、大学生の方に何かプログラムを作ってもらうというのを、実際に私、山口に住んでいたときにやっていたことがあって、向こうに梅光学院大学という私学があるんですけど、そこに環境教育をされている学生さんとか、環境を専門にされている学生さんの研究室というのがあって、そこにお願いしに行って、子供向けにそういう教育活動をしてくれませんかというのをお願いしたら、向こうの教授もぜひ、場ですね。要は学生の育成の場として大学には活用してもらうと。お子さん方はそこで学ぶということで、そういうウィン・ウィンの関係でできたという事例もありますので、そういうことも御一考いただけるといいかなという気がしました。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

椿副会長　　さっきの平仮名になっているという、何かコンセプトがあるのか。

高野環境係長　では、田頭委員からいただいた意見から回答というか、事務局の考えをお示しさせていただきます。

フォーラムであったり、和田委員からもありました、何か大学生を巻き込んだ子供向けの環境プログラムであったり、講演をプラットフォームにできたらいいのではないかなど、様々な御意見をいただきました。こちらにつきましても、大学生というのはすごくポテンシャル高くて、何かやってくれってなれば、必ずやってくれるような子たち

が多いのかなと思うので、まずはやってみて、どういった形でそういったフォーラムであったり事業につなげられるかというのを検討しながら進めたいと思っております。

若者を平仮名にした理由なんですけれども、こちらは正直、特にはありません。あるとすると、もともと令和７年度ずっと仮称小金井市気候市民会議という言い方をしてきておりまして、今年度実施した気候市民会議については、実際に参加者であったり、無作為抽出でお送りした皆様に、どういった会議名がいいですかという形でアンケートを取って、小金井市気候市民会議というような名前になった経緯がございます。

その中で、平仮名を入れると少し会議の名前が柔らかくなるかなと、事務局として、小金井というのを平仮名で入れた形でのこがねい気候市民会議というのがいいかなという思いもありまして、これがアンケート結果では２位ではあったので、実際に漢字にはなったんですけれども、今回、令和８年度実施するに当たって、会議体の名称よりも内容を充実させたいという意味で、アンケートは実施せずに事務局のほうで案を考えて、それをそのまま使おうと思いまして、なので令和７年度に使えなかった平仮名を使いたいなという思いがある。そういった形で、全部漢字になるよりも少し柔らかい雰囲気になるかなというところで、平仮名で決定した形で、わかもの気候市民会議としてお諮りしたといった経緯がございます。

大学生に限らず、大学生は本当に３大学があって、ほかに専門学校もあって、すごく地域資源に恵まれている地域でございますので、そういった方たち、特に先生方からの御協力もいただきながらになってしまうかなと思うんですけれども、無作為だけではなくて、学生枠、自分から手を挙げる枠というのもあれば、よりいいかなと思ってございますので、その点につきましては、また別途、事務局としても考えながら進めていければいいなと思っているところです。

以上です。

池上会長　　ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

では、池上からも。まず気候市民会議自体は、今年度実施したものもそうですけれども、小金井市としての環境教育に力を入れますとい

うところの一つとして、すごくいいイベントかなと思っております。そういう意味で、毎年できるというのはすごくいいことかなというふうに思いました。

そういう意味では、環境教育というと、若者って言っても教育を受ける対象はもっと下に広げてもいいのではないかという思いはありますので、中学生を入れてもいいのではと思ったりもしました。ただ、この場が教育の場になるのかということもあるかと思いますので、必ずしもこの会議を教育の場にしなくても、教育に向けた場にするということもあるのかなというのは今、皆さんの意見を聞いていて思いました。

一つお伺いしたいのは、今年度の市民会議のメンバーの中には、１６歳から２５歳の人もいらっしゃるということで、その方はスライドして参加できるのか、新たにまた無作為抽出なのかというのは今日お聞きしたいなと思いました。せっかく活動してくれた人は引き止めておきたいというのがあるかなと思いましたので、ちょっとお聞きしたい。これはもうスタートしているのですか。

事務局　　まだしていません。

高野環境係長　まだ今年度のメンバー、１６歳から２５歳の方もたくさんいらっしゃったんですけれども、ここはまだスライドするところまでは想定はしていなかったんですけれども、確かにおっしゃるとおり、そういった本年度参加した方がスライドすることで、昨年度はこんな議論できたよ、したよというのがあるとすごく強みになるのかなと思いました。また、ここも事務局で中身に、どういった人選といいますか、せっかく参加された方ですので、引き留めておきたいという思いもありますので、そこはまた検討させていただければと思います。

椿委員から、中学生レベルでもいいのではないかというようなお話があったのを、回答が漏れておりました。実際に令和９年度が未定ではあるんですけれども、もし令和９年度に可能なのであれば、令和９年度に年齢層をまた下げて、中学生に特化したものでもいいのかなとは考えているところ、あくまで案なので何も具体化はしていないんですけれども、ただ、中学生を今回入れることも検討はしたんですけれども、中学生と高校生って結構また考え方だったり違っている部分も

あるのかなというのがあるので、中学生が大人に交じって話ができるのと、高校生が大人に交じって話をするのは、またちょっとハードルが違うのかなというところもあったので、今回は今年度と同じく１６歳を下限としたいと。令和９年度にもし中学生とか、さらに下といいますか、そういった方たちも対象にできればいいかなと考えているところなんですけれども、あくまで令和９年度以降は未定ですので、そこはまた検討課題として挙げさせていただきたいと思います。

池上会長　　ありがとうございました。

ほかいかがでしょうか。橋本委員、お願いします。

橋本委員　　この令和８年度の対象というところに、２５歳までのいう、そこまではボルドーになっていて、市民というのが太字になっていないという、そこは何か今までの大学枠とか、そういう考えがあるのかなと思って拝見していたんですけども、そうすると市民会議の市民という名称に大学枠とか、そういうものをどういう形で入れ込んでいくのかなとかという素朴な疑問を持っていました。ですから、もちろん広げていくというのは非常にいいことだと思うんですけども、もともと市民という、そういう中から無作為で３０人というような形で前年度、令和７年度は進んできたものですから、そこのところの整合性というか、そういうところを考えないといけないのかなというふうに思って聞いていました。

以上です。

高野環境係長　ありがとうございます。そうですね、確かにおっしゃるとおりで在勤、在学も対象にしたいとなってしまうと、小金井のほうに住民票を移していない場合は無作為の対象にはならないので、そういった方たちは参加したくてもできない形になる。そもそも通知が送られてこない形になるので、無作為だけではなく大学枠も設けてという話もあったかなと。そこら辺の今年度との整合性といいますか、今年度は完全に小金井市に住民票がある方だけで行っていたところなんですけれども、住民票がなくても今回は参加できるようになるのかなども含めて、もう少し内容を詰めたいと思います。ありがとうございます。

池上会長　　ありがとうございます。大学だけじゃなくて高校もおそらく小金井市外から高校に来ている方も結構いるんじゃないかと思います。募集

自体を学校にもするというのはあるのかなと思います。大学にも募集が展開されます。興味を持っている学生というのも、それなりにいるのではないかと。もしかしたら農工大は農学部の府中キャンパス所属の学生も来るかもしれないですけど、興味のある学生はいるのではないかと思います。ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

（４）の第５期小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）について、説明を願いいたします。資料は１０番になります。

荻原専任主査　事務局、荻原のほうから説明させていただきます。資料１０を御覧ください。

小金井市には地球温暖化に関する計画は２つありまして、一つは先ほど御議論いただきました、対象が小金井市全域で、全市民、全事業所を対象とした小金井市地球温暖化対策地域推進計画というもの。それから、事務事業編としまして、市内に事業所としてある小金井市役所も一事業所として自主的に取り組んでいくというものとして、小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）というのがございます。現在の第４期の計画が、計画年度が令和７年度までで今年度で終了するため、来年度４月から行っていきます第５期の地球温暖化対策の実行計画というものを今年度策定に向けて取り組んでまいりました。

前回のこちらの審議会のほうにも、委員の皆様に案をお示しさせていただきまして、御意見いただいたところでございます。その後、その意見を反映、修正させたものを、庁内のそういう進捗をはかっていく機関であります環境基本計画推進本部というところで意見をいただきまして、このたび意見を修正、反映させたものとして、今年４月から取り組む第５期小金井市地球温暖化対策実行計画（市役所版）というものが完成しましたので、報告させていただきます。

この計画の３ページ目を御覧ください。計画期間と削減目標というところなんですけれども、計画期間といたしましては令和８年度、今年４月から５年間といたしまして、令和１２年度までの５年間を計画期間といたしました。

削減目標といたしましては、温室効果ガスのほうについては、令和元年度を基準年度といたしまして、令和１２年度までに５０％削減目

標とし、取り組んでいくよということで、５０％削減目標としてさせていただいております。

もう一つ、エネルギー消費量の削減目標といたしましては、この５年間で６．７％削減していきたいなという目標を立てさせていただいております。

その下に基準年度等の考え方についてなんですけれども、まず、温室効果ガスの排出量につきましては、今の計画、第４期の計画、これは基準年度を令和元年度にしているんですけども、同じ基準年度にすることによって、第４期からの進捗も比較できるんじゃないかということで、現在の第４期計画と同じ基準年度といたしまして考えております。

エネルギー消費量につきましては、やはりこちらのエネルギー消費量というのは、職員の日頃の省エネ行動等が寄与する部分も大きいことから、実績値として把握しております直近の年度であります令和６年度、これを基準年度といたしまして、これからの５年間で６．７％減らしていくよというような計画で立てさせていただいております。

この目標数値の根拠なんですけれども、温室効果ガスにつきましては、国が４６％という目標を定めておりまして、それから、東京都は５５％というような数字を掲げているところを考慮いたしました。

また、先ほど皆様に御議論いただいた地域推進計画においても、４６％という数字を掲げていることから、その辺を勘案しまして５０％削減というような野心的な目標設定とさせていただいております。

というところで、この計画のサブタイトルが表紙についていますけども、目標年度である２０３０年度ということで、「２０３０カーボンハーフへの挑戦」というサブタイトルでつけさせていただいております。

それから、エネルギーの消費量なんですけども、これにつきましては、うちの地域推進計画のほうが今回、２０３０年度までに２１％エネルギー消費量を削減するんだという目標を立てさせていただいておりますので、計画が終わるまでを考えると１年当たり１．２４％削減となっておりまして、これをこちらの実行計画の計画期間が５年分ですので、掛ける５倍の６．２％となりますけれども、これはあくまでも地

域推進計画においては４６％減らすためのエネルギー消費量なので、こちらの実行計画につきましては５０％分ということで案分させていただきまして、６．７％というような目標数値にさせていただいております。

この５０％減らすよという野心的目標をどうやったら目標達成できるんだという見通しについてなんですけれども、ロードマップといたしましては６ページ目のほうを見ていただきますと、下から８行目のグリーン契約の推進というところになります。電力の供給契約をする際は、再生可能エネルギー電力の調達を検討し、計画が終わる２０３０年度までに、調達する電力の６０％以上を再生可能エネルギー電力としますという書き込みをさせていただいております。公共施設で使用する電力の６０％以上を再生可能エネルギーで賄うことといたしまして、目標の５０％、全体で５０％減らすというようなところで見通しを考えております。もちろんそれ以外も細かくずっと書いてありますけども、こういうことをして細かい数字を積み上げた上で、全体として５０％減らすというようなところで考えてございます。

簡単でございますが、以上です。

池上会長　　ありがとうございます。御質問、御意見等ございますか。

では、池上からお聞きしたいのですが、今日の資料は対象の施設は具体的なＣＯ２排出量のデータはなくて、リストがあるだけですけれども、これは５年間で施設が新たに増えたりという計画が何かもう既にあるものがあるのかどうかとか、そういったところはいかがですか。施設が増える、減るというのがあると、一気にＣＯ２の排出量が変わって、減らしていった効果なのかどうかが分からなくなってしまうのですが。今後の５年間で何かしら計画があるのかどうか教えていただければ。

荻原専任主査　大きいものとしては、実は前回のというか、現在の計画である第４期の計画を策定するときに、この計画の終了年度についてはどうしようかというところで考えたときに、実はこの間に新庁舎ができて、蛇の目跡地に移るというのがこの計画期間の中であったので、そちらで１年間使った量とかも分かった上で、この令和８年度、新しい計画にまた目標数値等を決めていきたいなというような思いがあったところ

ではございますが、皆さん知っているとおり、庁舎建設が延びに延びて決まっておりませんで、だけど取りあえず今回終わってしまいました。

今後の５年間の計画ですけども、５年の中で庁舎が建つとも何とも言いようがないところでございまして、大きなところでいうと新庁舎建設なので、それ以外のところについては今、一小の建て替えとかやっていますけれども、そんなに変わらないというか、今、現存の建物よりも省エネ効果はあるかと思うのですが、大きさ自体はそんなに変わらないので、そういう意味では大きく変わるところはないのかなと。その間にまた新庁舎等が建ったら、それが建つというふうになったときには、また変わることになるかと思うんですけども、現在ではちょっと見通しとか予定等は考えておりません。

池上会長　　分かりました。いろいろ行動とか書かれていて、それはそれですばらしいことかなと思いますが、この目標の数字のように大きく減らすとなると、行動だけではなかなか難しくて、設備を変えるタイミングを逃さずにしっかりと変えていくというところが大事かと思いますので、この５年間でどういう設備更新の見込みがあるのかというのを見ておくと、削減の可能性というのもある程度見積れるのかなと思います。いろいろな施設の設備更新のタイミングをしっかりチェックしておくというのはすごく大事かなと思いますので、ぜひチェックしていただけたらなと思います。

荻原専任主査　そういう意味では、前回もお話したかもしれないんですけども、この目標年度が終わる２０３０年度までに、公共施設全部をＬＥＤ化するというような目標も、この計画には入れているところなので、そういうところで設備更新も随時していきたいと考えております。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。和田委員、お願いします。

和田委員　　市の庁舎を建て替えられるということになると、設備投資は無駄になってしまうと思うので、逆にやらないほうがお金が節約できていいんでしょうね。

荻原専任主査　庁舎関係はですね。学校とか公民館とか、そういうところがたくさんございますので。

和田委員　　そうですね。なので、そういった意味でいくと、いかに目標を立てられた後はＰＤＣＡを回していくかということになるかと思いますので、市全体だとモニタリングって難しいのかもしれないんですけど、市の管轄されている施設については、例えば年１回はエネルギーとかＣＯ２の排出量というのをちょっと棚卸しして、それをしかるべきこの場で皆さんと共有して、今、目標に対して目標どおりだな、ちょっと遅れているなとか、何かそういったレビューする場というところを設けられると、ここで書いていただいたような推進体制というところがさらに有効化されるかと思いますので、その辺も可能な範囲でやっていただければと思います。よろしくお願いします。

荻原専任主査　公共施設の温室効果ガス排出量につきましては、毎年、報告のほうをさせていただいているところでございますので、ホームページにも毎年出しております。令和７年度につきましても、夏ぐらいまでに例年、排出量が確定いたしますので、こちらの審議会のほうにも、秋の審議会のときには令和７年度の報告と、この第４期の計画期間の終了年度でございますので、それの一定、総括のほうを報告させていただきたいと考えております。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。田頭委員、お願いします。

田頭委員　　田頭です。６ページにあるグリーン契約の推進というところで、２０３０年度までに電力の供給契約をする割合を、再エネの電源での調達が６０％以上という具体的な数字が出たのはよかったなと思っています。これについては、これまでも出たかもしれないんですけど、ちょっと確認ですが、現状は何％が今、再エネ契約というふうになっているんでしょうか。増えてきているなということは報告があったと思いますが、改めて確認させていただきたいというのが１点と、それから、そういう意味ではＬＥＤ導入なども、今現状はどのぐらいだったかなと、素朴にこれは確認だけの質問なんですが、今お手元に数字があれば教えていただきたいと思います。

それから、この全体の中にカーボンハーフというところで、これは削減の目標などがどうなっていたのかなと思っていて、マイボトル、マイ食器などの推進ということも小金井市は進めていて、市役所とし

ても積極的に取り組もうという目標があったと思います。そういう意味で、ウオータースタンドなども導入されていますので、その辺の数値目標なども、もっと増やしていこうということで、プラスチックを削減、ペットボトルなどを削減していくという方向性、これもこの間、議論があったと思うんですが、今回、数値的には載っていなかったのかなと思いますが、それはどうなんでしょうか。

以上です。

荻原専任主査　まず、庁内の再生可能エネルギーの導入状況なんですけども、現在でいうと本庁舎、西庁舎、環境学習館というところが再エネ電力のほう導入しているんですけども、まず全体で考えると、僅か数％と少ないところでございます。細かい数字までは押さえていないんですけども、この１月からまた再エネで契約しているところがかなり増えていますのであれですけども、令和７年度全体を通して言うと、その３つぐらいなので、令和７年度の数字でいうと僅か数％程度だと思います。

あとは、ＬＥＤも正直、新しい施設、交流センターとか、そういうところはＬＥＤは導入されているかと思うんですけども、市内の庁舎とか学校関係なんかも古い建物が多いので、導入量としては少ないところですけれども、そこについても今後、どんどん変えていくというところで動いているところでございます。

岩佐環境政策課長　ちょっと補足で、再エネの関係は先ほどちょっとお話ありましたけど、今年の１月から小中学校含めて結構多くの施設で再エネ電気を導入し始めましたので、そこら辺、ちょっとまだ１月、２月、３月ということで、令和７年度の数字としては小さいところですけども、来年度以降、そこら辺のところは反映されてくると思いますので、また追って御報告させていただきたいと思います。

ＬＥＤの関係も、ＥＳＣＯ事業ということで市の施設、この蛍光灯がもう使えなくなるということでやっておりますので、市全体で一定の施設のほうは入替えが進んでおりますので、温室効果ガスの関係の数値も減ってくるんじゃないかなということで期待しております。

ウオータースタンドの話も田頭委員からありましたけど、これについても一定、入れているところでありますけども、環境部としても入ってないところにつきましては、前向きに設置の検討ができないかと

いうところは調整しているところですので、何台設置とか、そういった具体的な数字はついていないですけども、そこら辺は地道にやっていきたいなということで考えております。

以上です。

池上会長　　ほかいかがでしょうか。

近藤委員、お願いします。

近藤委員　　こちら市役所版ということなんですけど、この次は市民版とか、事業者編というのであるのでしょうか。

荻原専任主査　それは地域推進計画の市域の中で事業者が取り組むべき項目とか、市民が取り組むべき行動みたいなことは書き込みが一定あるかと思いますので、そういうところで取り組んでいただくということで。

岩佐環境政策課長　補足で、やっぱり地域推進計画で市民の方と、あと事業者の方と役割ごとに書いているんですけど、この前、立川市ちょっと見に行かせていただいて、比較的企業数も小金井よりも多いということもあるんですけど、商工会さんと市のほうで結構、連携のほうもうまく組まれていまして、この地球温暖化対策も推進されているなというところも感じてきましたので、今後５年間につきましては、市民の環境教育というのは一生懸命、小金井市のほうでやっていきますので、事業者との連携とか、そこら辺も一つ課題でありますので、それもうまくやっていけたらいいなということで考えています。

市役所版というところで市の計画になりますので、ここら辺、我々として見本になるべくいろいろと書かせてもらっていますので、あくまでも参考ですけど、そういったところも市内の事業者さんに広げていけたらなということで考えておりますので、また何かお知恵等ございましたら教えていただければと思います。よろしくお願いします。

近藤委員　　今のに関連してなんですけど、私、立川市の審議会にも出ているんですけども、この場に立川市の場合は支社があるということで、東京電力さんと東ガスさんが出ているんです。今回、試しに電力の、例えばこの絵で言うと、本庁はこれぐらいとか、かなり細かい数字を出してきたんです。ああいうことできるとやっぱり、そこまで進めるのかなという気はいたしました。

今後、計算方法を示すというお話ありましたけど、どうしてもかな

り大きい数字で出すようになっちゃうじゃないですか。それを字単位で試しに出してみたんですけど、そうすると結構ある程度、傾向が分かってくるというのがありました。ただ、それもいろいろ今後、改良していかなきゃいけない課題もありましたけども、そういう意味で、今お話あった立川市のは参考になると思います。

荻原専任主査　この地域推進計画のほうなんですけども、最初の初版と第２期地域推進計画を策定するときに、策定委員会というのを策定しておりまして、もちろんその中には公募市民の方とかいらっしゃるんですけども、一応、エネルギー事業所ということで東電さんと東ガスさんからは１名ずつ委員を出してもらって、そこで事業者としての御意見をいただきながら、計画というのを策定してきた経緯がございます。

池上会長　　ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。お願いします。

橋本委員　　橋本ですけど、一番最後に、細かい話で恐縮ですけども、自動販売機の設置の話があって、資料がついているんですけども、これも結構この場でけんけんがくがくと議論したようなこともあったので、今、状況どんな感じかちょっと教えていただくとありがたい。分かる範囲で結構です。

高野環境係長　自動販売機は、そのときと状況は変わっておりません。増えてなく、減ってもいない状況です。この方針については年に１回程度、各施設にも共有させていただいたり、増減がありますかという照会もかけて、数字については把握を続ける予定ではあります。

橋本委員　　そうですか。世の中的には何か大体、マイボトルを持ってきたり、しかも自動販売機は価格が高いので、減ってきている傾向には僕はあると思って見ていたんですけども、そういう世の中の流れも見ながら進めていかれたらいいと思います。

高野環境係長　そうですね。報道等でも自動販売機の設置台数が大幅に減る会社があるとか、そういったのは情報としては見てはいるので、ただ、需要と供給のバランスもありますので、必ずしも減らしなさいというようなものではないので、そこは各所管の考えもあるかと思いますので、そこはこの方針に沿った形で市としては進めていきたいと思います。ありがとうございます。

橋本委員　　分かりました。

池上会長　　ありがとうございました。ほかいかがでしょうか。

それでは、３番の報告事項は以上としまして、（５）のその他、全体について何か皆様から御意見ございましたら御発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、次第の４に行きたいと思います。次第の４は、第１１期環境審議会についてということと、次回の第１２期環境審議会の日程について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

岩佐環境政策課長　どうもありがとうございました。日程のほうは最後にまとめて周知させていただけたらと思いますけども、本当にどうも皆様お疲れさまでございました。環境政策課の岩佐です。

環境審議会も今期２年間の任期は今日でちょうど終わりということになりました。本当にありがとうございました。特に今年度は、地球温暖化対策の地域推進計画の中間見直しの年度でもございましたし、気候市民会議等も開催させていただきまして、環境審議会でも例年より多い６回の審議、御意見をいただきました。御協力いただきましてありがとうございます。

地球温暖化につきましては、昨今、やっぱり真夏日がかなり多くなったり、猛暑とか異常気象も増えてきつつあります。年々進行しているような状況ですので、初めて本市としても気候市民会議というものを開催させていただきまして、中間見直しもやっていく中で、皆さんからたくさん参考になるような意見をいただきました。

地球温暖化につきましては、一事業者、市役所だけが頑張っていてもなかなか前に進めないことでもありますので、市民の方の御協力であったり、事業者ですとか、あと、先ほどもお話ありましたけど、教育機関の皆さんと連携した取組が不可欠になると思います。

環境審議会につきましては、今期の任期は今日で最後となりますけども、引き続き御指導、御鞭撻をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

今日、近藤委員と中里委員、和田委員、本日御欠席ではございますけども、高木委員と土屋委員のほうも任期満了ということになります

ので、今日は参加いただくのが最終日となりますので、長きにわたり本当にどうもありがとうございました。感謝のほう申し上げます。ありがとうございます。

計画のほう、中間見直しということで、来年度から始まりますけども、つくって終わりではなくて、ここからがスタートであるということで、改めて我々市の職員も気を引き締めて頑張っていきたいと思いますので、今後もどうぞよろしくお願いします。

雑駁ではございますけども、私の挨拶と代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

池上会長　　ありがとうございました。

それでは、今日で一つの区切りということもありますので、本日、最後となる委員の皆様に一言ずつ御挨拶いただけたらと思います。

近藤委員から。

近藤委員　　近藤でございます。おとといから花粉がひどくて、鼻水と咳がひどくて申し訳ないんですけれども、今日でちょうど小金井市に転入届を出して２５年になります。今までで一番住んで長くなったのは小金井でございます。ちょうどそのとき２００１年だったんですけども、八丈島に赴任してて、帰るときに新宿と八王子、青梅辺り、両方通えるところがいいなって話をしたら、不動産屋さんが、ちょうど今の緑町の場所をあっせんしていただきまして、それでずっと住んでいるんですけども、今から十数年前なんですけども、学童の父母会長をやっていたときに、毎月１回ほかの学童の会長さんとも集まるんですけども、結構、地方出身の方が多かったんです。聞いたら、皆さん大学時代に初めて出てきて、東京に住んだのが小金井だった。その小金井がよかったから、そのまま家庭も持っちゃって、そのままずっといたという方が結構いらっしゃいました。それがやっぱ小金井のよさなのかなと思います。

今後も町会の活動等を通じまして、小金井市の環境施策に貢献できたらいいなと思っています。どうもありがとうございました。

池上会長　　和田委員、お願いします。

和田委員　　そうですね。今回初めて、この環境審議会に参加させていただきまして、私、普通に民間のメーカーで勤めている社員なものですから、

皆さんと同じようにＣＯ２削減をいろいろやらなきゃいけない立場として、会社のほうで本当同じような仕事をさせていただいています。

最近の民間企業での動向っていいますと、ＣＯ２については非常に今、動向的に逆風がいろいろ吹いていまして、某自動車メーカーさんとかも、北米で補助金を打ち切られたとか、ＥＶにものすごいシフトしていったフォルクスワーゲンさんとかもそうですけど、頑張った企業が痛い目に遭うという、そういう今、状況になっています。いわゆる気候変動って物理的なリスクもあるけど、移行リスクって言われるところがあって、この今、状況が変動する中で、いろんなリスクが地雷がたくさん埋まっているところをやっていかなきゃいけないという状況にあって、当社も非常に慎重に投資の判断をしながら、脱炭素というところはやっていかざるを得ないという形になっています。

大きな流れはそういうところがあるんですけど、ただ、２０３０年、５０年というところを見ると、やるべきことは絶対に変わらないというのは、それはマーケットも同じ思いでいると思います。例えば、去年の年間の自動車の車種の売上げ順位って、私があくまで見たデータですけども、世界で一番売れたのはトヨタのヤリス、１位がハイブリッドなんです。その後、１０車種続くんですけど、ガソリン車、ディーゼル車って実はもう２車種ぐらいしか入っていない。ほとんどがハイブリッドと、あとＥＶも入ってきたんですよね。テスラさんとかＢＹＤさんが入ってきました。なので、ちょっとずつ時間をかけながらも、やっぱり脱炭素の方向に、みんないろいろ文句は言っているんですけど、確実に動いていっているなという気がします。

なので、いろいろ難しいことはあるんですけど、ただ、私としては、とにかく今、目の前の仕事を着実にやっていくということが一番の近道なんじゃないかなというふうに思ってやっていますので、ぜひ引き続き逆風は吹いていますけど、ちょっとずつやっていく、諦めずにやるということが大事なのかなというふうに思っています。

私自身は今年７月に実は転勤が決まってしまいまして、ここにもっといたかったんですけど、一旦、離れますが、また次々回ぐらい、立候補させていただければと思っていますので、またよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

池上会長　　中里委員、お願いします。

中里委員　　私は皆様方と違って何の専門知識もなく、一主婦でございまして、何のバックグラウンドもありませんでしたので、皆様には何かと御迷惑をおかけしたと思います。いろいろありがとうございました。

ただ、私なりに環境問題を考えれば考えるほど、昨今の社会情勢には悩みを持っております。イランでありましたり、ウクライナでありましたり、一瞬のうちに瓦礫と化すものを毎日のように報道で見ておりますと、もう本当に何とかならないのかという思いばかりです。人命はもとより、一瞬のうちに環境破壊を行っているわけですから、まさに爪で拾って箕でこぼす状態。嘆かわしいと思います。何とかならないのかと考えております。

そんな中で、私はもう本当にささやかなんですが、野菜のくずを土に戻して、それをまた植木鉢でピーマンを毎年育てております。自分だけでの満足感はありますので、今後も続けていきたいと思っております。

本当に皆様、長い間お世話になりまして、ありがとうございました。

池上会長　　ありがとうございました。

それでは、最後に事務局から次回の審議会の日程についてお願いいたします。

事務局　　次回、令和８年度第１回環境審議会の日程につきましては、別途調整させていただきます。令和８年５月末から６月頃を予定しておりますので、日程調整の御協力をお願いいたします。

事務局からは以上です。

池上会長　　ありがとうございました。

それでは、委員の皆様ほかに御意見ございませんでしょうか。

高野環境係長　すいません。本日、欠席であった高木委員と土屋委員からもメッセージいただいておりまして、いろいろと欠席が続いてしまったり、なかなか参加できないことも多かったことはあったんですけれども、少しでも皆様のお役に立てたことであったり、そういったことを今後も市の環境施策に生かしていきたい。自分の事業等に生かしていきたいとの声がありました。事業を市内で活動されていますので、また何かありましたらお声がけくださいというメッセージいただいております

ので、ここで紹介させていただきます。

池上会長　　ありがとうございました。

それでは、本日はこれをもって令和７年度第６回小金井市環境審議会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。